

## 願わくは 花の下にて 春死なむ

### その如月の 望月のころ

288本。朝酌川の両岸で咲き誇る桜の本数です。

川津の里を南北に貫く朝酌川。今から40年ほど前、先人たちの努力により河川改修が完成しました。川幅は数倍に広がり、両岸には強固な堤防が築かれました。土手の桜はこの堤防の完成とともに植えられたものと記憶しています。

桜並木はガラガラ橋から樂山橋を経由して、約1キロにわたって下流の百足橋まで続いています。歳月はこの若い桜たちを育み、中には堂々たる枝ぶりの大樹へと成長したのもあります。とりわけ左岸の百足橋付近は、見事な成長を遂げました。花吹雪の舞う土手の上で、多くの人たちが散歩をしたり、お弁当を広げたりしています。

市内の桜の名所と言えば城

山公園ですが、桜の樹は180本。数では朝酌川土手がはるかに勝ります。市街地にこれだけの桜があるのは稀なことです。いずれ木次の斐伊川土手や玉湯川の桜並木のよう  
な、松江を代表する桜の名所になるのも夢ではありません。

この朝酌川の桜をテーマに、学園通り商店街との共催で「絵画と写真のコンテスト」を開催します(巻頭参照)。「朝酌川と桜」これから川津の街づくりのキーワードです。このコンテストはその第一歩。次の一手は?夢はどんどん拡がります。

標題は放浪の歌人、西行法師の歌です。今宵はブラタモリならぬ「ブラ桜」と洒落てみてはいかがでしょう。西行も微笑んで見守ってくれていることでしょう。